

委員質問・意見等

第 117 回定例会 (3 月 6 日) 受付分

● 新潟県 に対する 質問 ・ 意見

県の須貝課長の、新潟日報窓欄の技術委員会利益相反の回答記事を見た。役所は学者の権威で、行政を進める場合が多いと考える。

利益相反は、薬害事件で社会的に注目されて以降、大きな関心を持たれ、一定の条件が付されるようになったと理解する。

ところが、県の技術委員会小委員会のメンバーには、原子力以外では考えられない程、関係者が多いのではないのか。これでは、県民の安全、安心は得られない。

委員の選任基準に、利益相反に関する規定を設け、信頼関係が必要と考えるがどうか。

第 116 回定例会 (2 月 6 日) 後、受付分

● 規制庁 に対する 質問

質問：「再処理工場は発電所と比較して放射能の放出が桁違いに大きいと聞いているが、どのような対策を講じているのか」

に回答いただきありがとうございます。

いただいた回答に対し、2つの点で再質問します。

- ・ 再処理施設と発電所との比較をお聞きしたい
- ① 六ヶ所再処理施設の放射性廃棄物の影響が、年間約 22 マイクロシーベルトと評価されていることはわかりました。柏崎刈羽発電施設の平常時における放射性廃棄物の影響の評価は、年間何ミリシーベルトなのでしょう。

② 放射性廃棄物の放出量について

六ヶ所再処理施設の放出量は、気体・液体合わせて年間約 34.8×10^{16} ベクレルとのことですが、柏崎刈羽発電施設の平常時における放射性廃棄物の放出量は年間約どれくらいなのでしょう

・ 放出放射能の影響について

「六ヶ所再処理施設においては、放出放射能は保安規定に定める事によって厳格に管理され、国も確認することとなります」との回答でしたが、2006年3月アクティブ試験開始以降、いくつかの心配な報告があります。

2009年9月原子力学会での報告

「アクティブ試験中の六ヶ所村大型再処理施設周辺における水圏環境中のヨウ素129の濃度」（財）環境科学技術研究所

工場東隣の尾鮫沼の水生生物の放射能汚染進行状況

プランクトン：2006年比で83倍　藻類：2007年比での19倍

ワカサギ：2005年比で20倍　カキ貝：2005年比で30倍　等

（財）環境科学技術研究所 2009年報告書

尾鮫港で海底堆積物のヨウ素129が2008年6月には、2006年のおよそ12倍に上昇

青森県原子力施設環境放射線調査報告書 2009年度 第3・4半期

2009年、再処理工場に近い尾鮫地区の井戸で14ミリシーベルト／リットルのストロンチウム90が測定された

文科省主管海洋環境放射能評価事業検討委員会報告（2009年10月）

2008年5月、八戸沖約25kmでトリチウムの濃度が自然海水の6倍以上の測定値が出ている　等です。

厳格に管理されていても、このような変化が起こることなのでしょう。